

2015 年度 センター試験 政治・経済（本試験） 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：5 題	解答数：36 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	○ 変化なし ● やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	● あり	○ なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評 大問数 5 題、解答数 36 問で、過去 2 年と変化はない。資料を用いた問題が昨年の 8 問から 6 問に減少。事項の年代把握が必要な問題が 1 問増え、3 問となった。正誤判定問題の選択肢が、昨年までに比べ判断し易いものが多く、資料を用いた問題の減少もあり、全般的に難易度はやや易化した。昨年は見られなかったリード文への穴埋め問題が 3 問出題されたことと、2014 年の最新の時事問題に関する出題が見られたのが特徴的であった。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	経済における国家の役割をテーマに、政治・経済の各分野を総合的に出題。	28 点	問 7 の資料問題は細かな知識が要求され、難易度が高い。問 8 の資料問題は税の負担者の定義の理解がポイントとなった。2005 年の追試に同様の設問が見られる。
第 2 問	労働問題をテーマに、経済分野から網羅的に出題。	17 点	問 5 は 2005 年第 5 問の問 5 とほぼ同じ設問。問 6 は資料を用いて知識を活用する必要があり、やや難しい。その他の設問は基本的な知識で解答可能であろう。
第 3 問	憲法をテーマとした会話文の中で、関連する政治分野からの出題。	19 点	問 2 は 2014 年 1 月の障害者権利条約批准も含めた年代整序問題であり、センター試験で最新の時事的知識が問われたのは特筆すべき点である。
第 4 問	スポーツイベントをテーマとし、主に国際経済分野から出題。	19 点	問 4 は各国経済の背景知識が要求された。同様の設問が 2005 年第 7 問の問 2 にある。問 7 の需給曲線のグラフは典型的な設問。
第 5 問	人の移動をテーマとし、主に国際政治分野から出題。	17 点	問 1 の穴埋めは、直前のリード文を理解することが必要。その他の設問は基本的な知識で解答可能であろう。